

下描き



ポイント☆

人物の胴に対して頭部をささえる首がどう入るか、目鼻耳の位置をとることで視線がどこに向けられるかをスタート時点でしっかり定める。(古河原)

- 1 木炭で大まかな構図を決める。細部は描き込まず大体のあたりをとる。

着彩



- 2 雰囲気をつかむ。ポイントにグレージングし、表現したい画面全体の雰囲気をつかむ(テレピン+ウルトラマリンディーブ)。



- 3 人物の内側を描く。内側=人がもつエネルギー(力)をさす。外皮の内側にある体温・血・肉をイメージしながら、刷毛と平筆を組み合わせて、ポップさと深みのある暖色との組み合わせ(ルミナスピンクとカドミウムレッドライト)で力強くダイナミックに描く。



「心溶く」2014年 油彩、キャンバス 10号M

胴と頭部のバランスを見ながら、球体としての頭部を面で形作っていきます。一工夫ある面の塗り方も紹介します。

技法講座 4 講師：古河原 泉

立体の組立と大まかな面で頭部を捉える



【使用した画材】

キャンバス：クレサン麻張(10号M)
 絵具：肌の色は、ベースはイエローオーカー(ホルベイン)、インジゴ(クサカバ)、パフチタニウム(ジョージアン)、その他はライトレッド(ホルベイン)、ルミナスピンク(ホルベイン)、カドミウムレッドライト(ホルベイン)、バイオレットグレイ(ホルベイン)、パーマネントマゼンタ(ジョージアン)。衣服や背景は、シルバーホワイト、チタニウムホワイト、ウルトラマリンディーブ、ハイドレンジャブルー、コバルト(全てホルベイン)。
 油：テレピン、ペインティングオイルクイックドライ(全てクサカバ)
 筆など：右から、固めのペインティングナイフ、刷毛、平筆(4種)、面相筆、木炭(全てメーカー不明)